

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 森田 幸雄

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

獣医公衆衛生学（人獣共通感染症学）（後期4年生、獣医学科）

将来獣医師となる学生のために、人獣共通感染症について理解させる。獣医師国家試験、公務員等獣医師就職試験に沿った授業内容とする。

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）（後期3年生、獣医学科）

将来獣医師となる学生のために、公衆衛生行政における獣医師の役割、卒業生の2割が就職する公務員獣医師の仕事を理解させる。獣医師国家試験、公務員等獣医師就職試験に沿った授業内容とする。

獣医疫学（後期3年生、獣医学科）

疾病の流行の解析、疾病対策、食中毒対策のための疫学的手法を学ぶ。今後、卒業研究等、研究の形態や解析方法について、実践的に学習する。獣医師国家試験、公務員等獣医師就職試験に沿った授業内容とする。どのような就職先があるか、その就職先で獣医疫学はどのように使用されているかについての授業を行う。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医公衆衛生学（人獣共通感染症学）	獣医学科	必	4	132名
獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）	獣医学科	必	3	146名
獣医疫学	獣医学科	必	3	146名

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）・獣医公衆衛生学（人獣共通感染症）・獣医疫学

私は地方公務員の食肉検査所、保健所、衛生環境研究所、県庁の行政の経験をしており、行政獣医師の公衆衛生上の役割を明確に学生に伝えている。実務家教員として獣医学科学生には実践経験をふまえた教育を志している。獣医師は食品衛生・公衆衛生・人獣共通感染症の専門家として行政に採用されていること、すべての行動は法律のもとに規定されていることを学生につたえている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学）・獣医公衆衛生学（人獣共通感染症）・獣医疫学

獣医師国家試験の出題傾向を把握し、講義の中に、国家試験問題をちりばめながら、しかも、次の国家試験に出題されそうな重要なところを予測しながら、授業を実施している。実務家教員であるので、たくさんの感染症や感染症防疫事例やフィールド写真を保有している。また、海外の友人から送ってもらった写真・動画がある。日本は感染症のきわめて少ない幸せな国であり、世界にはまだ様々な感染症が出現していることを説明し、経済、人、感染症の流れは地球規模であること等、日本はグローバル社会の中の先進国であること。獣医師は世界的な視野で考えなければならないことを重要視している。特徴づける方法は、動画をふんだんに用いて、視覚にうったえる授業である。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

国家試験対策もあり、記憶する授業が中心であるが、関連するニュースを見せて、感染症や食中毒の病因物質や行政対応を予測してもらう

（2）ICTの教育活用

有

PPT ファイル、動画を使用。課題はwebの学理のアンケートをとおして提出。授業録画ファイルをホームページ上に掲示（学内のインターネット環境により2割くらいの授業は途中で録画停止あり）

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（1）教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

各回の授業の「まとめpdfファイル＝国家試験対策用pdfファイル」、「教科書の重要なところを示しながら、事例をあげる方法」で実施している。

（2）学生の理解度の把握

B

対面授業であるが記憶することが中心の授業なので、各回に課題を提出させている。毎回の課題提出について、採点をしているが、理解度の把握は十分でないと思われる（よく聞いていないのではないかと思うこともある）。未提出者には督促をしているが、なかなか提出をしてくれないことが多かった。

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

授業で重要なところを記憶する授業となるが、担当授業は獣医学でも応用の学問であり、課題は身近な生活にふんだんにあるので、新聞を読むことなどの情報収集等を含めた学生の自学自習を求めている。しかし、うまく取り組めていないと思われる。来年度は、課題をだすなど、改善したい。

（４）学生とのコミュニケーション

B

毎回行う課題の最後に、本日の質問やコメントを求めている。そこに記載されてものについては、返答をしている。しかし、質問やコメントが少ない。来年度は、質問やコメントを促すなど改善したい。

（５）双方向授業への工夫

B

覚える授業であるので、十分とはいえない。上述の④の質問も少ない。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

常に国家試験を意識した授業。「過去にはここが出題されました。」「私はここが皆様の国家試験ではでるのではないかと予想している」ということを、授業中に口頭・スライドで示していた。法律等、国家試験では出題されることも多いので、法律は臨床と離れた分野ではあるが、とても重要であり、獣医師法のもとの獣医師であり、食品衛生法のもとの食品衛生監視員等、身近なことから法律の仕組みを教えた。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

10分間の休憩を確実に入れました。早めに講義資料を学理上にアップしようと思いましたが、うまくアップできませんでした。特に、獣医公衆衛生学（総論・食品衛生学、人獣共通感染症学）は教科書が改訂となったので、早く学理上にアップできませんでした。アンケートにより授業内容は変えることなく実施いきたいと思います。授業中の教科書で重要なところに線を引かせる時間について、短いというコメントがあったので、遅くしました。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

3年生の授業ですが、前年度の学生と今年度の学生は異なる集団ですので、何の反応もありませんでした。

4年生ですが、3年生のアンケートをうけて変えましたが、反応はありませんでした。授業中の教科書で重要なところに線を引かせる時間について、短いというコメントがあったので、遅くしました。

(3) (2)を踏まえた次年度取組

早めに講義資料を学理上にアップします。授業内容は、より国家試験対策を意識したものにしようと思います。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

3年生、4年生の授業であるので、国家試験対策のみならず、VetCBTを意識した授業を実施し、成績向上につとめたいと思います。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

授業評価はおおむね良好であると思われる。毎回の授業で配布している国家試験対策用のpdf まとめファイルの充実をはかりたい。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

FD研究会には参加している。ただ、国家試験がある教科であり、「考える授業」より「記憶する授業」なので、いかに興味をもたせ、記憶させるかということは、通常のFDでは得られないことも多い。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

獣医公衆衛生学（食品衛生）、獣医公衆衛生学（人畜共通感染症）、獣医疫学については、2025年02月に実施された第76回獣医師国家試験対策を2025年度の授業に反映させる。また、獣医学関連師関連法律をしっかりと覚えさせ、時々の最新の情報を入手し、学生に考えさせる授業をおこなう。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

各授業時に配布する「国家試験対策まとめpdfファイル」